

「スポーツ歯学」への取り組み

山口県 高里 徹

山口県歯科医師会では、スポーツ歯学への取り組みとしてマウスガード事業を展開している。

平成14年度に「山口きらら博覧会」の関連イベントとして、マウスガードを無料作製し啓発を行った。その際マウスガード作製歯科医院を募り、名簿を作成し供給体制を整えた。

平成17年、18年度は山口県体育協会の依頼により、山口県陸上競技選抜中学生を対象にマウスガードを無料で作製した。この2回に限りボランティアで作製したが、将来の展開を見越して山口県体育協会へ予算措置を申し入れている。同協会とは2011年開催の山口国体に向けた協議も継続中である。

平成19年度は、スポーツ歯学のさらなる認知度向上

のため、県民公開講座に日本スポーツ歯科医学会理事長の安井利一明海大学教授の講演会を開催した。一般の理解と賛同を得るには、エビデンスに基づく理論展開が不可欠だと思われる。

来年度は、マウスガード作製実習講習会開催と、5年が経過した前述の名簿の更新を行い、供給体制の強化を図る計画である。

スポーツ歯学のランドマークたるマウスガードが、いつの日か人口に膾炙（かいしゃ）されるために、近隣の中国地区歯科医師会、日本スポーツ・健康づくり歯学協議会および日本スポーツ歯科医学会を嚆（ひそみ）に倣いながら、今後も事業を継続していきたい。

「集え、学びの場に！」

長崎県 国松仁志

歯科界の活力の低下は、昨今の学術研修会の参加者減にも如実に表れているようだ。巷を賑わしている「歯科医師の需要と供給」論議は、国民からみれば「量を減らせば質が上がるのか」の一点に尽きる。対社会的に日歯は「生涯研修事業」をプロパガンダしているわけで、“カメラのきむら”の「経営哲学八か条」の中にも「知行一致、学んだことは実践しろ。人生は一回限り、一生勉強である。己に厳しく、ひたすら勉強せよ」とあり、“経営のいろは”のひとつはまさに「生涯学習」である。勉強してもしなくても“ちっとも変わらない”ではすまされない時代の到来を待つのみである（学術委員の独白）。

さて当県も、主に県都の長崎市と、県北の佐世保市で年2回の学術研修会を開催している。出席したくて

活用すれば手軽に自己研修できるとか、交通の利便性が向上し、自己都合に合わせて近隣で行われる業者主催の研修会などに出掛けることが可能、マンネリズム、わざわざ足を運んでまで聴講しようと思わせるだけの魅力的な研修会の企画・立案ができていない学術委員会の怠慢などが重なっての低迷だとは思いますが、見るのはいつもの顔ばかり、「参加者の固定化」は由々しき事態だと思う。

そこで「逆転の発想」、高度情報化とはいえ、離島などのハンデがある地域に、こちらから出向き、その地区の先生方と協力して実のある研修会を実施するという学術委員会初めての試みを挙行了。10月27日（土）壱岐市で、「日歯生涯研修セミナー DVD 映写会」と銘打ってミニ研修会を開催した。会員数は11名（当日所用で2名欠席）の少数精鋭で、県歯主催なの